

# ぶどう棚と

# 石積み



## 甲州式ぶどう棚

峡東地域は、傾斜がきつく、起伏の大きい扇状地に位置している農地が大半を占めています。また、栽培面積が小さく、不規則な形をしています。

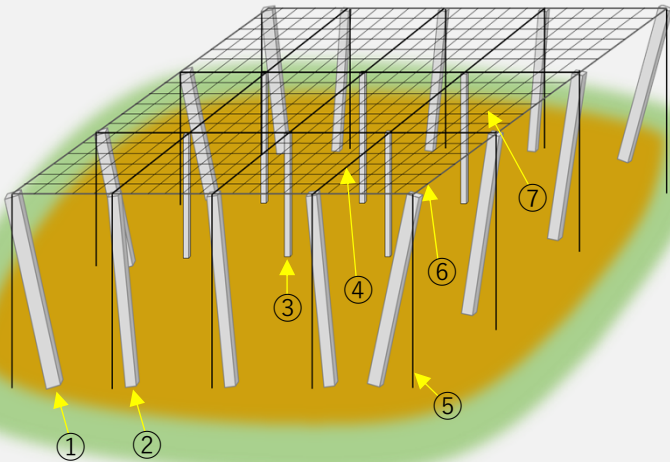
そんな地形条件に適応し、小さな区画でも安定して果物を生産するため、古くから様々な工夫を凝らしてきました。その中の一つが、「甲州式ぶどう棚」です。四百年以上前に開発され、その後、安定した生産ができるように改良を重ねられ、「甲州式ぶどう棚」と呼ばれる形になりました。今では、日本国内の標準的なスタイルとなっています。

「甲州式ぶどう棚」の特徴は、棚面を地面から離すことにより風通しを良くし、病気の発生を抑制することができます。また、農地の傾斜や形状に合わせて設置することができます。



## 甲州式ぶどう棚の構造

甲州式ぶどう棚は、コンクリート製の杭とステンレス線を用いて、地面と平行に設置しています。棚全体を周囲からバランスよく引っ張り強度を維持しています。



- ① 隅杭 (すみぐい)
- ② 平杭 (ひらぐい)
- ③ 中杭 (なかぐい)
- ④ 杭通線 (くいどおしせん)
- ⑤ 支線 (しせん)
- ⑥ 周囲線 (しゅういせん)
- ⑦ 小張線 (こばりせん)



ぶどうってどうやって育てるの？

## 棚仕立て



棚仕立ては、主に生食用ぶどうの栽培に用いられています。山梨県では醸造用ぶどうにも多く見られます。収量は多いですが、手作業による収穫となります。生食用は見た目も重要なため、下から形状を確認できる利点があります。

## 垣根仕立て

垣根仕立ては、醸造用ぶどうの栽培に世界的に広く用いられています。収量は棚仕立てに比べ少ないですが、平地や緩やかな傾斜地で栽培される仕立て方のため、機械を導入しやすいという利点があります。





# 果樹園を支える石積み

峡東地域の地形条件では、農作業の作業効率があまり良くありません。そこで、地域の人々は畑の周辺にある自然石を利用して積み上げる「空石積み」により、傾斜を緩和することで、作業性の良い農地を作り、地形条件を有効的に活用してきました。

しかし、土留め対策としての空石積みの需要が減少していることや高度な石積み技術を持つ石工職人の高齢化により、自然石を積める技術者が減少してきています。「空石積み」の強度は、石工職人の技術力によって決まると言われます。果樹園を支える空石積みは、長年風雨に曝され、所々に痛みが発生しています。そこで空石積みが変わり「練石積み」と呼ばれる技術により、高度な技術を要さなくても強度があり、自然風景との調和がとれた石積みを作ることができます。

現在は、自然石による練石積みのほかコンクリート擁壁やブロック積み擁壁へと変化していますが、峡東地域の果樹農業を支えてきた伝統的な石積み技術と自然風景と調和した石積みのある農村景観は、世界に認められた、次世代に継承していくべき大切な技術です。

— 石積みにより耕作面の傾斜を緩和した農地 —

## 石積みの種類

### 空石積み

石のみを使い、石と石を組み合わせて積み上げる工法。



甲州市勝沼町菱山

### 練石積み

石を積んでいく際に、コンクリートを充填しながら積み上げる工法。



笛吹市春日居町熊野堂



山梨市万力



## 空石積みの作り方

- ① 壁面の高さを決める。
- ② 使用する石を大きさで分別する。
- ③ 強度と排水性を確保するために砂や小石で構成される栗石（ぐりいし）と呼ばれる層をつくる。  
※壁面が高いほど層を厚くする。
- ④ 壁面の面（つら）が合う大きい石を選ぶ。
- ⑤ 地表面より深くなるよう、石積みの一番下の石（根石）の位置を決める。
- ⑥ 根石を決めたら、面が合うように、大きい石を積む。  
※隙間に小石を入れ、安定させる。

隙間に小石を入れて積む石を安定させる。

面  
(つら)

栗石  
(ぐりいし)

根石  
(ねいし)

